



# 出 会 い

第60号 平成二十八年五月発行

健康登場サラ・シャンティ  
神戸市灘区八幡町  
3-6-19 クレアル六甲 2F  
T/F: 078-802-5120

## 20周年に起った奇跡の数々

清水正博

僕は来年だと思っていたサラ・シャンティ20周年が、実は今年だと気付いた時、すべてが完璧に準備されていた。自分で考えて企画したらこんなに面白いものにならなかったらどう。こんな事をしたいと思った人たちの思いが偶然この4月に結集し、実現したのだからこんなに楽チンで有難い事はない。それも夢のような素晴らしい講師が毎週日曜日に来てくれる、何と有り難いことか。新しい時代意識を現わす講座ばかりだと思おうので、チヨット書き出してみた。

- ・4月3日 大下伸悦・伴崎史郎講演会
- 大御食神社の神代文字の社伝記を学ぶ
- ・4月10日 保江邦夫講演会
- 僕が日本の心を大切にしようになった訳
- ・4月17日 精神科医・越智啓子
- 言霊ワークと講演会「芦屋神社社会館
- ・4月24日 白雲友子・田中眞水講演会
- 宇宙からの聖言集」・広瀬剣 笙の演奏。
- ギャラリーでは白雲友子 天啓画展」

今ここまで終わって会報を書いております。すべて満員御礼・盛況で有難い事でした。

引き続き 3days 己読みシンポジウムロ、

・4月29日 天海ヒロ x 中山康直

生命宇宙のこよみ」

・4月30日「半田広宣 x 吉野信子

潜象物理のこよみ」

・5月1日 川瀬統心 x 甲田烈

存在真理のこよみ」

・5月8日 吉野信子カタカムナ第3クール全6回

ウタヒ81首の解明と数霊」が始まる。

なんとマニアックな講座ばかりですが、どれも人気が高く満席状態なのです。以前だと前衛的過ぎて理解されなかった内容の講座が、今やすごく注目されるようになってきています。戦後70年封印されてきた中で、縄文精神に繋がる神代の歴史や文化を研究してきた先駆者たちが、表舞台に登場し、活躍する時代がきたのです。アセンションした」、岩戸が開いた」などと云う言葉を象徴するような講座ばかりが揃ってほんと日本神界の神々、中でも六甲山のセオリツヒメの喜ぶ姿が目に見えがぶようです。

阪神大震災から生まれたサラ・シャンティは、その節理に従って魂やご先祖様、森羅万象の神々の意志を大切にしてきました。その姿勢で20年間続ける内に、ご縁が結集して守護霊の総力が生まれたのか大変マニアックな場所として注目されるようになりました。しかし象徴的な事として忘れてはならないのは、311東北大地震からの

流れがあまりにも神がかり的なのです。2012年に古事記編纂1300年を祝い、13年の伊勢・出雲同時遷宮、14年は御嶽山噴火、この流れがあつたから、伊勢神宮参拝者が13年、14年の2年で2500万人を越した。これは日本人が八百万の神々の存在を思い出すように仕組まれたと言つていい象徴的出来事ではないでしょうか。

そして2015年は戦後70年を迎え、安保法制で国会が荒れ、GHQ戦略の実態と米国隷属の外交が暴かれました。お金と生活の為なら仕方ないと考える現実主義がはびこってきましたが、今年2016年は総仕上げの年なのでしょう。日本人が誇りを取り戻し愛国心が復活するように仕組まれたのか、G7外相が広島を訪れ平和記念資料館訪問及び原爆死没者慰霊碑に深々と折り、献花をしてくれました。

さらに戦後の呪縛から解放される象徴的な出来事は、5月にオバマ大統領は原爆投下に対する謝罪のために広島を訪れ、伊勢志摩サミットでは各国の首脳たちが伊勢神宮に参拝し、多神教の神々と天照大御神に頭を垂れます。歴史的に見て大変な事が起こっているのですから、まさに日本人の溜飲が下がる思いですね。この事が子供たちにも良い影響を与えるためにも、大和魂や武士道という言葉が復活してほしいですね。

こうした歴史的大転換の時に、精神世界を牽引される保江邦夫先生がサラ・シャンティに生まれ、僕が日本の心を大切にしようになったわけ」をテーマに語られた。GHQの7年間の占領政

策による自虐史観から目覚め、日本語の特異性を証明するカタカムナ、古神道に流れる縄文基層文化を伝えるホツマのトホカミエヒタメの心で、日本の精神革命の第一声を放って下さったのです。それも20周年記念行事にですから、あまりにも出来過ぎじゃないですか？

大きな会場ばかりで講演される保江先生がサラ・シャンティに来て下さるなんてまさに奇跡的なことなのですが、2月に北一策先生の講演会があり、シャンティ・メールで鬼倉足日公著「稷と皇道原理」を増刷した案内を出したら、なんと保江先生からも一冊欲しいとメールが来てびっくり、ちやんと読んで下さっていたのだと感激し、これは千載一遇のチャンスとお返事で講演の依頼をしたら、4月10日ならOKですと決まったのです。「これは本来ありえない事だ」と保江先生も講演の中で述べられていました。

講演当日も家から出られる時に、行きたくないなーってしぐさ家を出て、新幹線の岡山駅で座っていたら、2か月前から会いたいと思っていた友人が偶然現れて、新神戸まで一緒に乗れたおかげで、その人にホームページの作成の内容をきつちり伝える事が出来、おまけに写真まで撮ってくれた。サラ・シャンティに来たおかげで神様が一瞬のチャンスを下さった」と語ってくださいました。実はここに至るまでも不思議なことが一杯起つて実現したのですが、これは何も私個人のためではなく、日本の為に八百万の神々がお働きになっているのですから、全国的な現象の一例だと思ってください。

会場はロッカーを外に出し、高い舞台を設営して話を聞き易くしてスタッフを入れると100名近い参加者だったのに、何の混乱もなく無事終える事が出来たのも奇跡なのですが、それは保江先生が本邦初公開のスゴイお話ばかりを、まるで現場を見て来たように正確にサービスピリット旺盛に面白可笑しく休憩なしにあつたと言う間に3時間30分語られ、参加者を興奮の坩堝に引き込まれたからでした。さらに懇親会にも42名の参加があり、マイクを持ちこんでお話の続きが聞けて終わったのは9時過ぎでした。

どんな感じが書きますと、朝シャワーを浴びようと裸になったら、矢作直樹先生からお電話が入り、裸のまま1時間話をきかされ……といった調子で……広島に原爆の落ちたのはご存知ですよ、実はその2週間前に原子爆弾を積んだB29は東京に向って飛んで来たのですが、20数基の護衛戦闘機の前で忽然と消えてしまった。マッカーサーは昭和天皇に、何をしたのか？と問い詰め、教えてくれたら、ヤルタ会議で日本が中国、ロシア、米国で3分割統治を、米国だけの統治にし、速やかに独立させる」と交換条件を出したそう。昭和天皇から聞き出したのは聖徳太子の13巻の巻物に書かれている秘伝で、マッカーサーは飛んで帰ってトルーマンに報告した」なんて話をされるのです、信じられますか？

さらに、その聖徳太子の秘伝をトルーマンがIBMの職員に分析して実用化せよと命じ、新兵器の開発をしたそう。ナポレオン・ヒルはIBMの下っぱ職員だそうで、思考は実現する』は聖徳太

子発だったようですね。さらに、ベトナム戦争当時のこと、世界の最新鋭機だったミグ25が日本に飛来してソ連軍人が亡命した事件は実は、ベレンコ中尉を金縛りにして日本に引きよせたのが真実。この話は高野山の阿闍梨がやったと聞いているが、実はニクソン政権の時に昭和天皇に依頼があつて阿闍梨がお手伝いして一緒にやったことなのだ」と云つた熱い熱い内容のお話が続く、日本と云う国の皇統の歴史の凄さをアメリカ人が認めざるを得ない内容だった訳です。(詳しくは、講演のDVDをお買い求めください。)

保江先生がこんなお話をされるようになったのは、著書「神様と繋がった電話」の中に登場する宮崎の女性が受けた天啓を先生に伝えるお話があります。それが今回の演題「日本の心を大切にしよう」と同じ名前の政党が生まれ、党首の中山恭子さんに繋がっていくのです。正にキリストが再降臨してくる神智学のマイトレーヤーの話のようですが、保江先生が語られる中山党首の武勇伝を聞けば、世界中の人を感動させた映画「おしん」もつながり、それが保江先生と中山恭子さんを結ぶ力になったことが分かります。

中山さんが大使に赴任されたキルギスで日本人鉱山技師4人がイスラム原理主義グループに拉致された時に、「自分で居場所を突き止め4輪駆動を自ら運転して乗り込み、わたしを身代りに4人を釈放して欲しい」と訴えたそうです。原理主義のリーダーは中山さんの姿をおシンのようにだと感動し、無事に4人と共に護衛つきで送り返してくれたそうです。この武勇伝を聞いた小泉

さんは中山さんを北朝鮮に派遣し、拉致解放のお仕事をされました。こうした世間には知られていない感動的なお話は、中山さんが自らお話する事はないので、どこからか保江先生に漏れ伝わった事なのでしょう。

中山さんは、主義・主張、党利・党略で争う時代は終わった、これからは世界から期待されている日本が和の精神を復活して、世界に示して行く時だと言われます。これは3年前に僕が緑の党に参加して応援した時に考えた事と同じ事をいわれているのです。いろいろ反対だと言いつついても無駄に時間が過ぎるだけ、それより日本人が真善美の美意識を取り返せば、脱原発や平和憲法なんて当り前の国になっていくでしょう。

シリウス宇宙連合の長官の保江先生と副長官の矢作先生が、中山党首の日本の心を大切にする党を支えたいと思われるのは、お二人が日本に真善美の精神復活の革命を起そうと何冊も本を書いて来られた思いとまったく一致しており、サラ・シヤンティが全力で支援したいと思うのも当然の成り行きなのです。

福島原発の放射能汚染の問題があるにも関わらず海外からの観光客は増え続けています。最近のテレビでは海外で日本の着物が好き、武道が好き、日本画が好き、日本に来て本物が見たいと思う若者たちを招待する番組がありますが、彼らは日本人以上に日本の事を知っている人が多いですね。まさにネットがあれば、なんでも勉強できるから、日本語を話せて日本人のように

なりたいたいと期待して来ますよね。そのためにも日本人が日本の文化・歴史、日本語の特殊性についてしっかり学んでほしい。地政学的に有利と言われる条件は縄文時代から変わっていないのですから、日本に漢字以前に文字が無かったなんてありえないし、何の文明もない野蛮な国だったら、今のようないし、何の文明もない野蠻な国です。そのためにもカタカムナの研究が求められているのです。

4月3日大下伸悦・伴崎史郎講演会 犬御食神社の神代文字の社伝記」の講演会の実現もその現れです。大下伸悦先生が現在住む南木曾近くに、大御食神社があり、そこに阿比留草文字の社伝記が保存されていた。ここはヤマトタケが東征の帰途、伊那谷の赤須彦の饗を受け 三夜を同地に過ごし、その後赤須彦がヤマトタケを祀り大御食神社と名付けた。その社伝記を伴崎史郎さんが解読されたわけですが、3-1以降に大下先生がヤマトタケのイベントを何度も開催されたのは、伴崎さんとの出会いを実現するためだったのですね。

神代文字はなかでも一番古いのがカタカムナ文字であり、ヲシテ文字、アヒル文字など何十種類もあつて、世界の文字すべてが日本起源といわれる。そうしたものが残っていることが日本と云う国の持つ潜在的な能力の証明であり、他の大陸の国々では地政学的な弱点から侵略などで政権が変わるたびに消失されている。

日本は地理的に恵まれた環境のお陰で、流れついたり、亡命してきた多くの民族が、理想郷の

ような安住の地を得て知恵を出し合つて発展する、現在で言えば移民と亡命で生まれたアメリカ合衆国のような国だった。この地政学的条件は縄文時代から変わらないし、ムー文明の中にカタカムナの言霊・数霊原理の宇宙言語があつたと言うのが、沖縄からの最新情報なのである。

カタカムナが沖縄から全国に広がり、人気沸騰したのは精神科医の越智啓子先生のお陰です。越智先生は3年前、吉野信子先生のカタカムナ言霊講座に注目され、真つ先に沖縄で開催し、全国展開して下さった。カタカムナの本を書かれ、吉野先生の本の出版のお手伝いもしていただき、カタカムナがイッキに世間に注目されるようになったのです。そしてカタカムナの聖地六甲山のイワクラや神社、セオリツヒメの六甲比女大善神社などを案内した時に、アメノオシホミミを祀る二宮神社の龍神様から先生に、次はサラ・シヤンティで開催せよとのご神託が降りたのでした。

医師でありながら、西洋医学の治療は一切されませんが、心の病気に必要ないからでしょうね。満員御礼となつた越智啓子先生のワークショップと講演会は、ほんとに楽しいお話やパフォーマンスで熱気にあふれます。不思議なご縁のお陰で天穂日命を祀る芦屋神社会館で開催することができましたが、芦屋駅から登り道で距離があり心配だったので、問題もなく100名近い参加者で賑わい無事に終了しました。越智先生は、スピリチュアル路線を堂々と歩まれ、素晴らしい指導的な役割を演じておられます。

その翌日の月曜日4月18日午後5時半から岩谷時子 生誕100周年記念行事ミニコンサートが急に決まりました。岩谷時子さんは越路吹雪さんのマネージャー業の傍ら、作詞家として3000曲を超える作品を残した方でご存知の方は多いでしょう。ぼくも良く歌っていた彼女訳詩の「愛の賛歌」ろくでなし」「セ・シ・ボン」「サン・トワ・マミー」など知らない人はいないと思いますね。西宮生まれで神戸女学院卒業の岩谷さんは、僕たちと同じエネルギーフィールドの広田神社・甲山のセオリツヒメパワーを頂いて育てておられお手伝いができて光栄でした。

そして、4週目の24日は古神道の枠を越えた、普遍的な宇宙からの教えを説く田中眞水(著)、白雲友子(絵) 宇宙からの聖言集は、天から降ろされたメッセージを味わっていただく企画で、これからの日本の立ち位置を予言している内容なのです。広瀬剣さんが笙の演奏会もして下さいました。白雲友子さんはアワ歌の中山博さんが降ろされるメッセージをサラサラと翻訳されビックリ。そこに吉野信子さんも参加されて、カタカムナの内容との整合性を検証していただき、自分でも信じられないですが、大いなる日本神界からのメッセージをサラ・シヤンテイで伝えようと仕組みられたほんとうにありがたい一日になりました。

そして第5週の連休3日間のイベントは名前やタイトルを見てもマニアック過ぎて何の事が分からない方が大半だと思います。でも、満員御礼となるのですから、社会から求められているのです。

少し違った視線でこれからの社会を面白く生きて行くために、少し冒険だと思つてサラ・シヤンテイに来て下されば、世界観や美意識が広がることでしょう。違った言葉を使ってそれぞれ視点の違いがありますが、求めている事は同じなのだと分かります。西洋的な価値観の過ちからいち早く抜け出して、日本的な世界観をいかに現代的に表現すれば良いか、そんな葛藤の中で意識を共有する、そんな素晴らしい仲間が集まって来て、20周年記念行事がピークに達するように仕組みられたのですから、ご協力下さった皆様との神縁に心から感謝の気持ちで一杯です。

古い原生林の森がある六甲八幡神社を産土にして生まれ育つて地縁・神縁に目覚めた私は、どれほど精神的な根っ子の部分に神意識を育ててくれていたかが分かり、裏庭同然の六甲山には聖徳太子、役の行者、空海が残した足跡を何度も子供の頃から辿つて来たことで自然に受けていた目に見えない力が及んでいたことから、日本の歴史の奥深い魅力に取りつかれるようになったのです。おかげで阪神大震災で与えられた天命を全うするために「心」と「魂」の時代の到来を願つて様々なイベントを主催してきた訳ですが、こうして続ける内に、日本神話にまったく興味がなくなつた私が、いつの間にか古事記やカタカムナの言霊講座を主宰するようになりました。

そんな時期に転機が来たと感じたのが2011年の東北大地震で、日本人の和の意識への復活を予想していたら、見事なほど予定調和されている神々の仕組みに驚いてしまったのです。天変地

異は傲慢な人間に対する警告だ、そんな事を言う、被災された方々を冒瀆するの、なんて言われまじし、「これは果して偶然か?」なんて云うのも世間ではばかられる事です。でもそう思っている人は多いのではないのでしょうか。宇宙原理に陰と陽があるように、男と女、表社会と裏社会があります。原子爆弾を積んだB29を消した昭和天皇のお話など、戦後70年過ぎてやっと封印が解けて、保江先生や矢作先生などから昭和天皇の祈りの力や聖徳太子の残した秘伝のお話が、語られるようになって来ました。

私たちが戦後習つた歴史がどれほど出たらめだったかが分かります。私たちの歴史観や世界観や美意識を形成して来た歴史の内容が総崩れしているのですから、可笑しい事だと思えます。しかし、世間ではまったくそんな事は話題にもなりません。学校や塾で間違つた歴史認識のまま教師たちが今なお平気で子供たちを教えているのでしょつか?

明治維新から150年の歴史を早急に正しく書き換えてほしいですが、カタカムナ文明が日本語の核になっていることも早く学校で教えて欲しいですね。九州・熊本の大震災の余震が長く続くのは、日本人をさらに目覚めさせようとする日本神界のシナリオなのかもしれません。そして、保江先生や矢作先生が政治の舞台に出るよう仕組んで精神革命を起こそうとしている。なんて考えられない事が起こっている現在、日本の心を大切にすることに無関心ではいられないのです。

次の四つの文章は

- ①大飯原発のおおい町出身、徳庄博美さんの麗しの国・若狭よりのお便り25
- ②井奥浩文さんの1月24日の宮嶋望講演会と3月14日の菅原真樹講演会のレポート
- ③大中洋道さんの宮嶋望講演会のレポート
- ④3月6日の北一策講演会の報告は下倉栄三さんより。

## 麗しの国若狭より 25

### 人間と大地の蘇生の幕開け

#### 「隻手の音声」と複合発酵法農業

徳庄 博美

前号で高嶋博士提唱の複合発酵法農業について報告させていただきました。先(17日)に山梨県白州の名水公園ベルガで高嶋博士と藤原直哉さんの講演、対談が行われ参加してきました。お二人の話は見事にコラボっていました。今日は高嶋博士の話を中心に私が理解したことを書かせてもらいます。



目の前に八ヶ岳を望む塩水の露天風呂に入り、超ご機嫌でした。風呂に入った時は雲が垂れ込め雨もぱらついていたのですが、暫くするとアツという間に雲が切れ始め見事にすんだ青空が広がっていききました。温泉に身体を横たえてじっと空を見上げていると舞いながら飛んでいく雲と広がっていく青空が私のこころのようでした。自分

で自分を祝福していました。

環境微生物学博士である博士はまた釈迦をはじめとする人類の教師たちや哲学、宗教、歴史、科学全般・政治・経済にも通じていて独自の見解を持っている知の巨人です。

中でも江戸時代の白隠禅師に深く傾倒されています。白隠の有名な公案に「隻手の音声を聞け」と言うのがあります。これは両手で叩けば音がするが片手ではどうか、片手の音を聞けと言うことです。私は今までなんどもこの公案にぶつかったのですが全く理解に届きませんでした。しかし最近アアこういう事かと理解出来るようになりました。

私の理解はこういうものでした。二元論を超えよ、相対思考を捨てよ、分別を止めよ、そして真理、空あるいは無を体得せよ、と言うことなのかという理解でした。博士はこういう話を紹介してくれました。ローマ法王が「白隠の隻手の音声を聞け」が分からない人間はイエスを理解することが出来ない、と言ったと言ったことです。またジョンレノンのイマジンの一節「天国も地獄もない」もこの公案から来ているのです。ジョンレノンも白隠を理解していたのです。

全て二元論を超えよと言うことなのです。片手で正直に・素直に・直角に真理に触れなさいと言うことなのです。この真理とは実相であり、無相であり、無・空なのです。この相対を超えた平和な世界をイメージしましょう、そして皆が幸せ

になりました。ジョンレノンのイマジンのメッセージだったのです。まさに般若心経のギャーティー、ギャーティー、ハラギャーティー、ハラソーギャーティー、ボジソワカです。みんなが向こう岸にたどり着いた、相対思考を捨てた、悟った、素晴らしい、と全く同じだと分かり感動しました。

私たち人類が楽園であるエデンの園から追放されたのはエバが善悪の知恵の実を食べたからだ。ここから私たちは、相対思考、二元論の世界に落ちてしまったのだ、今私たちはこの相対思考を終わらせて再び千年王国、エデンの園に帰るのだ」と理解するようになっていた私は深く納得しました。博士の話はさらに続きました。真理は色即是空、空即是色で物質は空無であり、また同時に空・無が物質なのです。

だから宇宙も空・無なのです。宇宙・物質もブラクホールに飲み込まれて消えていき、またビッグバンにより生み出されているのです。全ては物質と空の世界を行き来しているのです。言い換えると物質は消滅し、また空から生み出されているのです。

しかし、デカルト以来の二元論、要素還元に陥った科学は物質不滅の法則としてこのことを受け入れることが出来ません。実は事実として細菌の世界でこのことが日常的に起っているのです。地球の歴史を見てもそうなのです。40億年前の地球は気温600度で高濃度の放射能が飛びかい、濃硫酸の海の中に嫌気性細菌、ストロマライトが登場し、この細菌がこの濃硫酸のエントロピー(汚

染物質)の世界を酸素を生み出すことで、生命圏、エロジー世界に変えてきたのです。しかし物資不滅の法則が真理だと信じ込んでしまっている科学者はこの事実を見ることが出来ません。事実目を閉じてしまっているのです。

そしてこの科学は利便性だけを追求し再びこの地球、生命圏にエントロピーを増大させて破壊の限りをつくし、今破壊の淵にまで突き進んできたのです。私の発見した微生物の複合発酵法はこの好気性菌、嫌気性菌、通性嫌気性菌を同時に活性化させ、微生物の力でこの増大したエントロピーをエロジーに変えていくのです。ダイオキシンも、PCPBも、放射能も、重金属も、産業廃棄物も、尿尿も汚泥、家畜の内臓、骨、皮も全て消えていくのです。海水が真水に変わります。そして最終的にはC、N、H、Oの元素に転換していきます。色が空に変わっていくのです。

全てデータで示すことが出来ず、再現性があります。またさらに空からエネルギーを取り出すことも出来るのです。無一物即無尽蔵なのです。複合発酵法で作った酵素液を散布すると土地で眠っている好気性菌、嫌気性菌が活性化してくるのです。今まで腐敗に傾き固くなっていた土が、発酵に転換し、いのちを取り戻すのです。すると鉄棒をさすと2mまですっと入る柔らかいふかふかの土に成るのです。すると害虫も寄りつかなくなるのです。空気から窒素を固定し、エネルギーを取り入れるのです。そこでは農作物がすくすくと育つのです。農作物本来の美味しい味になるのです。無農薬、無化学肥料、無除草剤、

無肥料で栽培できるのです。

安全な農作物が栽培されるのです。実証例がどんどん広がっています。見学に来た中国・モンゴルの会社が導入したいということでの発酵ユニットを大量に送っています。羊の内臓の処理、砂漠の緑化やPM2.5の処理、漢方薬の無農薬栽培を行う予定のビッグプロジェクトが始まっています。私の複合発酵法は色即是空、空即是色の真理を科学と農業・工業、医療技術で実証するものなのです。これで世界の食糧問題、環境汚染問題、水不足、健康問題、エネルギー問題を解決したいと考えています。

世界は闇の権力によって支配・操作されていますが、それとも戦わずに勝つのです。壮大な話でしたが、大きな希望が胸一杯に広がって行きました。温泉で見た青空と同じでした。現在、私の家にも2種類の1t発酵タンクを導入し、複合発酵法による液肥を作り始めています。この液肥と酵素液を若狭の農業をやっている皆様に広げていきたいと考えています。

この複合発酵法技術により若狭の大地を甦らせ、農業・漁業を再生させていきたいと考えています。夢が夢で終わるのではなく実現できる技術が現れてきたのです。宇宙の調和に反するものはブラックホールに飲み込まれ消滅していくのです。若狭の原発も生命権と調和するものとはとても思えません。しかし新しいものが同時に立ち現れているのです。この出会いに感謝以外にありません。

PS:

①高嶋博士の本は学術書として「蘇生・回帰の科学」星雲書房が出ています。NHKが放映するために取材依頼があったということです。楽しみにして下さい。

②日本再生プログラムフォーラム理事長・経済アナリストの藤原さんからの話を追加します。経産省に複合発酵法による放射能除染を提案するために作った放射能汚染土壌と複合発酵酵素水いりの水溶液の入ったビンを車の助手席の暖かいところに3ヶ月いれて放置しておいて、放射線測定器ではかったら持ち込んだ時には音がして反応していたものが全く反応しなくなっていたので、この技術で放射能がきえることは間違いないことを確信している。

911の秘密報告書38ページをオバマ大統領が公開する決意を固めたという情報が入っていると言っています。パナマ文書以上の旧体制へのメガトン級の破壊力となると思います。

○複合発酵法新農業との出会い  
また最近沼津で細菌由来の酵素剤を使った農業に出会いました。有用細菌を活用したEM農業は広く知られていますが、一部限界も指摘されています。

今回出会った技術は、高嶋開発工学総合研究所の高嶋博士が開発された細菌の複合発酵によってもたらされた酵素剤を農地に散布するというものです。そうするとその土地に眠っている細菌が活性化され農作物の生育に最適なコンディ

シヨンを生み出すと言うことです。あらゆる農業に応用可能なのですが、共通点は農薬を十分一からゼロまでに減らすことができ、安全な農作物を提供できる。肥料が不要になる。

今高騰しつつある農薬代、肥料代支出を大幅に減らすことができる。連作障害がなくなる。そして出来た作物が高品質であるという素晴らしいものです。話だけでなく実際に見たいと長野に見学に行きました。立科の複合

発酵による酵素剤を使っているリンゴ農園を見学しました。高さがキュウリの背丈ほどの幹が手首ぐらいのリンゴの幼木に赤いリンゴがたわわになって



いるのです。そして食べて見ると実は蜜が満ちていて甘くてしかも酸っぱく、固く、かじるとジュワットと果実の液が凹みに溜まるのです。ウマイツの一言でした。もう驚きでした。

キャベツ農園はお化けのような大きなキャベツが並んでいました。無農薬だということでしたが葉には虫食いはほとんどありませんでした。これも驚きでした。又これで米を作っている農家は食味計ではかると日本一うまいとされている魚沼産コシヒカリの85を超える95の数値が出ているということでした。この米を買っては非食べた」と考えています。また葡萄栽培農家の飯塚さんはこの発酵資材を使ってなんと一房2万円で作られる巨峰を作っていると言うことでした。

牛の牛糞から堆肥を作っている牛舎にいきました。

た。牛のぼたぼたした糞の山に大量の尿が漏れ出していました。見た目にオエッと感じる凄惨な状態でした。そして糞尿の山にこの酵素剤を噴霧しているということでした。しかし見た目のすごさとは全く違い、においがしないのです。風向きで一瞬かすかなにおいがするだけでした。これも驚きでした。そしてこの堆肥で作るジャガイモはブランドとして出荷されていると言うことでした。

極めつけは集落の尿処理場でした。従来の尿処理施設でこの酵素剤を添加しているということでした。最終の処理場面で思わず目を疑いました。尿尿の有機物が完全に分解されて、透明な液体として流れているのです。この透明な液体はミネラル分と酵素が充填されたエネルギー水だということでした。大腸菌はゼロだと言います。高嶋開発のかたは太いパイプから勢いよく流れ出る液体をひしゃくに汲んで、それを手で受けて、おつて下さいと差し出されました。一切のにおいがありませんでした。

かなり抵抗が私にはありましたが私も手で受けました。さらりとした感触でした。顔につけてもいいですよと言われましたがさすがにそれは出来ませんでした！そしてこの水を畑や田んぼに撒いているのです。そしてあのお化けキャベツや魚沼産コシヒカリを超えるうまい米を作り出しているのです。近所の農家が農業のために無料のこの処理水を取りにくるそうです。近くの野沢菜もびっくりするぐらい大きく育っていました。しかしこの処理を行う前は近くの畑からとれる

農作物は尿尿のにおいがして食べられなかったと言います。

スゴイ！！複合発酵法酵素剤。と感動の声を上げていました。(他にも報告することは多くあるのですが今回はここまでとさせていただきます)見学してこの技術を若狭の農業に持ち込みたいという気持ち湧き上がってきました。高嶋博士も協力するといって下さっています。若狭の再生のビジョンがむくむくと広がっています。

世界は崩壊に向かう流れと同時に再生に向かう流れが始まっているのを同時に感じます。未来は明るい！！！！

## 宮嶋 望 講演会

井奥 浩文

2016年は実に面白い。年明け早々、サラ・シャントイの講座で、一月二十四日の日曜日に、カタクアミナのイヤシロチ



化で世界最高品質のチーズが誕生」という宮嶋 望氏の講演会に参加した。知らない人間なんていない」のちが教えるメタサイエンス」の本も講演会の後で読んでみた。おいしいチーズも食べられるとのこと、迷わず参加した。とにかく2015年からはカタクアミナに傾倒して、特に吉野先生の御蔭で、随分と身近にカタクアミの本質を教えていただき、カタクアミ」というキーワードがあるとそれで検索される勉強会には必ず参加するようになりまし。そんな

わけで、講演会のタイトルもとても魅かれるものがありました。

サラ・シャンティは、家から近いこともあり、また、スピリチュアルなことも興味があり、開設当初から様々な講座に参加させていただいてます。講演会では、スライドを使って、とても分かりやすく説明してくださいました。チーズから世界が見えるということに感動しました。カタカムナの世界の奥深さを感じる事ができました。話される内容のすべてが、「いきいきといきる事のすばらしさ」を伝えてくれて、あらためて人生の中で自然を大切に生きていくことの必要性を感じました。

今日、化学薬品、添加物なしの食べ物に出会うことが困難な時代に、自然を生かしたチーズを作り出した努力には感嘆しました。ぜひ、北海道の共働学舎新得農場にも訪れたいと思いました。思わず口外無用の意味深な話も飛び出し、「〜」と感嘆することしきり、でも、実際の体験の話もとても分かりやすく伝えてくださり、また、講演会ならではのリアルな話には、思わず、目から鱗がこぼれるようでした。

地球を浄化するとりくみをできるところから始めていこうという気持ちになりました。自然を生かすことの大切さの中には、「いきる」この意味を問い直す機会もあることに気付きました。

安全といいながら命を蝕むものを使う。本当に安全安心の世界は自然の中にある。太陽は、原子力に優る。酵母は、化学薬品に優る。その逆の

ことを、人間の便利さのために、化学薬品で腐らない食べ物をつくり、原子力で電気を作る。たしかに電気がなければ世の中は不便。太陽光だけでは現代は動かない。

でも、本当は、もっとシンプルに生きられる。自然と共生できる。そんな取組みでうまれたチーズの話は、また、自分の生き方をもっとナチュラルにしていこうという気持ちにさせてくれました。生きているのは微生物も同じ。食べ物は生きているのだ、その命をいただいて生きている人間は、命に対して謙虚にあるべきだ。

自分本位の食べ物ではなく、地球の一員として生きるため、その生命のために、やむを得ずいただく命。その命を大切にしたい。体の中で、細胞は懸命に生きている。この魂の宿る肉体のために、謙虚に食べものに向かう。「かかれている」ことに感謝する。チーズは、まさに生きた食べ物。命の食べ物だということを感じました。ますますチーズが好きになりました。命の宿る食べ物を食べて生きている人間だからこそ、命を大切にしていきたいものです。

### 菅原真樹「タマシイノヒトシズク」出版記念

#### WITH土居正明先生の講座に参加して

井奥浩文

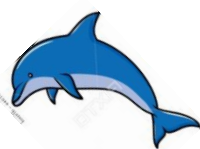
まったく2016年と言う年は、もうワクワクする講演会に次から次へと参加する機会に恵まれて鳥肌が立つ連続です。

土井暢子さんのフラもダンスもすばらしく、ハワイを感じる事ができました。そのハワイ

の海を舞台に素潜りで深海の写真撮る。そのなかで、特別に日本の海女さんの素潜りの写真も、海に生きている人がいるのを教えてくれる。そんな海を守りたい。ただ潜るということはシンプルなことだけそんな簡単なことではない。人間の目で届く世界の限界。写真に込められた思いを丁寧な語り語っていただくことができてもラッキーでした。今回の写真集のいきさつをよりリアルに感じ取ることができてとても感動しました。

一枚一枚の写真にまさに魂が宿っているのを感じます。目に触れるところにいつもおいては眺めています。自分では潜れないけれど、潜ったらこんな世界があるのかと思うとその神秘に心が洗われます。ちきゅうはあおい。宇宙からではなく、深海からのメッセージ、あおいのそのも宇宙である。

まだまだ自分の知っている世界なんてたかが知れているちっぽけな世界。どれだけグーグルで世界が見られても、海の底は見られない。火星は分析されても、そこに住めない。手の届く範囲なんてしているが、海の底も、宇宙のはとも思いは届くことを改めて知ることができると素晴らしい写真集を得られてよかったです。求めていることが自然と引き寄せられていく。今、起きていることが一つ一つつながってきているのを実感しま





す。

写真集の中に、日本で海に投げ捨てられたプラスチックで、鳥たちが被害を受けるといふショッキングな写真がある。でも、鳥たちは本当に懸命に愛で生きている。悲しいけれど、その悲しみを感じられるのは人間しかいない。鳥たちは、とにかく与えられた声明を懸命に生きる。見えぬ世界が見える写真集。

これまで、それほど写真集はアイドルぐらいしか知らなかったが、あらためて一枚の写真の素晴らしさに触れることができて、写真集の概念を根本的に見直す機会となりました。江本勝さんの「氷の結晶」の写真集もすばらしい。そんな水の話を生居正明先生からも聴くことができたのはラッキーでした。水は海に帰る。大地に雨で戻り、川となり海に戻る。水は循環している。そんな海の命の源の世界を見せてくれる「タマシイノヒトシズク」という深海の世界。

海をゴミ捨て場にははいけない。ゴミを出さない。ゴミを拾う。人間のできる簡単なことをすることで、海を守り、鳥たちを守りたい。鳥たちを苦しめる張本人である人間ではあるが、同時に、悲しみを知ることのできる人間にしか、また、鳥たちを守ることはできない。悲しみを忘れていた人間は、傲慢になる。痛みを知ることの大切さ。でも、その悲しみを知り、乗り越えようと素晴らしい世界が開く。

鳥たちの楽園を取り戻すことは、私たちの楽園を作ることに等しい。この青い地球を守りたい。

そんな気持ちにさせてくれるこの写真集を、ぜひ僕の手の届く人たちにも伝えていこうと思います。サラ・シャンティでは、すばらしい講座があるので要チェックですね。

### 宮嶋望講演会

#### 「ものけ姫のメッセージ」に参加して

大中 洋道

講演を受けてみたいと思ったのは、サラ・シャンティの講座案内を読んで、カタカムナの埋蔵技術などを使ったチーズ作りということだけではなく、家庭や学校、職場に居れなくなってしまった人達が作ったチーズでもあり、これから生きていく上で、ヒントが含まれているような気がしたからです。美味しいチーズが食べてみたいというのも、確かに大きな動機の一つではありましたが、それだけで終わらない話になりそうな気がしましたので、満員にならないように、予定を調整してすぐに申し込みをしました。

講演の表題にある「ものけ姫」の作者の宮嶋駿監督の映画作品は、私は「千と千尋の神隠し」は見たことがありますが、ものけ姫は見たことがありませんでした。



ですから、講演のレジュメに書いてある、ものけ姫の登場人物の説明は、十分に理解が出来なかったのですが、宮嶋駿監督がファンタジーの世界に社会的なメッセージを重ねておられること、そしてそれは宮嶋望氏のチーズ作り

も同じで、表面に見えないかもしれませんが、豊富な知識と深い洞察力に裏打ちされた作品なのだと分かりました。

それは、宮嶋望氏が講演後の質疑応答の中で、難しい質問に対しても、専門家として、すらすらの確に答えられていたことでも印象付けられました。本当にしっかりと勉強され、さらにその知識をヒラメキで使って実際に応用されるところは、知行合一そのものです。体力・知力・愛情に溢れた方です。

チーズ作りは中央アジアで始まったようで、レンネットチーズ(子牛の胃袋の中にある酵素で牛乳を凝固させる)文化としてヨーロッパへ伝わり、(ドイツへは、ゲルマン民族が強くてローマを撃退したため、チーズ文化が伝わるのが遅れたそうです)、また気温が高いインド方面には発酵乳の文化として伝わり(インドのラッシーでしょうか)、東方には遊牧民によって伝わり、5〜6世紀になつてから、日本に蘇や醍醐として入ったそうです。

そして、シルクロードは地球のエネルギーの高い部分を結んだラインと重なることや、製鉄と乳の文化はセットであり、スサノオの陰のライン(中国の白頭山、日本の大山、白山)が製鉄の町、北海道の室蘭につながり、アマテラスの陽のラインは自然農法で有名な福岡正信氏の生まれた愛媛県の佐田岬を通っているなどと、学校の授業では習うことはない、科学と地理、歴史、農業の話を中心として、貴重な情報たっぷり、楽しい講演会でした。

講演で聴きたかったことの一つは、カタカムナのごことでしたが、今回に限って言えば、それ以上に気になることがあります。それは、私の父が頭に水が溜まって床に臥してしまっていたのですが、宮嶋望氏のご子息は、かつて交通事故で重傷を負われた時、懸命の介護の結果、一命をとりとめられた、と伺っていましたので、何か私の父の病状の回復にも参考になることがあるのではないかと思います。しかし、今回の講演では、看病の話は講演では話題に上りませんでした。講演後に購入して読んだ宮嶋望氏の著書、刃んな、神様をつれてやってきた」の中に、その時の経緯が触れられていました。

この本には、幼少期の思い出に始まり、チーズ作りで成功を収めるまでの体験から、一気呵成に書かれた勢いが感じられます。ペルーのマチュピチュには、朝日の当たる場所に常磁性の非常に高い石を組んだ段々畑があり、その石がやせた土地にある養分をイオン分解して吸収しやすくするので、やせた土地でも収量を上げることが出来ることなど、技術的にも興味があることが書かれています。

本のあとがきに「応えられた祈り」という英語の詩の翻訳が書かれています。

大きなことをしよう、強さを求めたのに、小さなものの気持ちがかかるように、弱さをあたえられた。より大きなことをなそうと、健康な体を求めたのにより善いことをするように、病弱を与えられた・・・中略・・・自分が求めたものは

何一つ手に入らなかつたけれど、私自身気づかない心の叫びに耳を傾けてくれた。真実に背いていたにもかかわらず 私の言葉にならない祈りは応えられていた この世界のすべての人の中で、私は最も豊かに祝福されている」

(作者不詳 ニューヨークリハビリテーション研究所の壁に掲載。なお、この詩は、昨年の十一月にサラ・シャンティで癌について講演をされた松野哲也先生も、同じように取り上げられてご自身で翻訳されていました)実は、私の父は、思ったより早く今年の一月に亡くなってしまいました。

毎朝、近くの産土神社に手を合わせて祈っていたのに、父を回復させて下さいという祈りは聞き届けられなかつたのでしょうか。いや、今は分かんなくても、将来のため、別の形で神様をご配慮して下さいのだと思っております。

しばらくの間ですが私が働かせて頂いた、あるNGO(海外に井戸を掘るボランティア団体)の理事長が学ばれたのは、宮嶋望氏の卒業された自由学園でした。そのNGOが信州の小谷村でしているワークキャンプは、協働学舎ですし、他の活動にも協働学舎が絡んでいます。カタカムナに関係するサラ・シャンティの講座や、高熱炭素菌を使った神谷先生の農法の体験など、全部が私の中で、かすかに繋がっていくのです。(どこかで糸はつながらがつてしまいました)

宮嶋望氏のような方が世の中にいらして下さり、社会に新しい風を吹き込んで頂いていること

は、とても有り難いことです。後で通信販売で購入をした「きくら」というチーズは、4月の桜の季節に、配偶者の父を失って気落ちしている母にプレゼントしました。父を失ってから始めて母からワインを開けようと言って笑顔を久しぶりに見せてくれました。

このような、珍しい貴重な講演会を開いたり、父に対して、貴重な情報、人脈、励ましを下さったりしたサラ・シャンティの皆さまにこの場を借りて心よりお礼申し上げます。

## 北一策氏講演会に参加して

### 下倉 榮三

サラ・シャンティ二十周年おめでとうございます。

さて北先生の講演会に参加しようと思った動機は実践的な呼吸法を身に付けたかったからです。

伯家神道の呼吸法は8つのチャクラにまさに若返りの気を取り込めるテクニクで、チャクラは両ワキ各一つ、膝の裏各一つ、足の裏各一つにおへそと肛門の8つです。

一行程は先ず①吸って、

②吐いて、③止めて、④吐いて、

⑤止めて、⑥吐いて、⑦吸って、

⑧吐く流れで行い。①から

⑧までそれぞれ8秒ずつ

計64秒掛けてします。

これはあくまで初心者呼吸の時間で上級へ従っ



て、その倍の各16秒ずつの計128秒を掛けて行きます。そしてさらに上級は又その倍の時間を掛けて呼吸するもので、初めて免許皆伝が貰えるそうです。

呼吸法は基本的正座をして膝を閉じて開いての繰り返しで行います。

体の動き、両手の動かし方はちよつと文章で説明するのが難しいので又ご縁があれば直接身振り手振りで、わかる範囲で説明したいと思いませんが？(自信はありません)

又北先生は漫画学の超大家でいらつしやいますし言霊の研究者でもあります。

さて北先生の講演会では目的としたもの以上の多岐にわたる内容で、私の想像を越えるマクロ的なガイアの法則に結び繋がるのかもと思えました。ガイアの法則では地球のバイオリズム、人類史が、常に一定する速度のスピン、正確には、1611年間に、経度にして22.5度 聖なるリズム【の焦点は西側にスピンするというシミュール文明から始まって現在の西洋文明から東経135度の日本が次の繁栄を…にわかには信じられない事のようにであるが…約6400年前から続いていた事実だという。

北先生の 日本を再認識するために日本語を考える「世界中で一番売れた本は 聖書」でも 仏教経典」でもなく日本の 漫画」だという。

又世界の子どもたちが日本語をまなび原語で漫画を読みたいと『ある中国の高官が言っていたそうです… 最近の中国の子どもたちが優しく

なった、それは日本のマンガの『下えもん』などのマンガの影響でもあり、日本語の持つ言霊の影響もあるようです。

フランスやロシアでも日本語の響きにひかれる人たちも多いようです。

日本漫画の歴史的な興味深いところで世界漫画の原点ともいえるべき大きな影響を与えたもので葛飾北斎の浮世絵があります

葛飾北斎の浮世絵がヨーロッパのジャパニズム運動で大変なブームになった事実があり、また先ず伊万里焼がヨーロッパでブームになり、それから伊万里焼を包むのに緩衝材としてもつたいなくも浮世絵の紙で包んでいたものがヨーロッパでの浮世絵が見出だされてブームになったとのこと。ルノアール(うちわをもつ少女)や特に、ゴッホなどは日本にあこがれてアルルを日本にみだてていた。

また擬声語に於いてはフランス語のオトマトペが一般的ですが日本語には遠く及ばず一千倍から一万倍の多さがあるとのことで日本語の特徴の一つです。

手塚治虫氏においては音ひとつしない場面に『ーン』と書くのは、じつはなにをかくそうぼくが始めたものだ

手塚治虫『マンガの描き方』よりがある。

日本の漫画はどうして面白いのかのテーマでおもしろい一つのテーマでアメリカの3大ヒー

ローコミック『スーパーマン』『バットマン』『スパイダーマン』これに対する日本の『宇宙鉄人キョーダイン』『機動警察パトレイバー』『宇宙戦艦ヤマト』他の日本漫画と比較して日本漫画にあつてアメリカ漫画にはないものは？

『地球防衛軍』という意味の言葉が日本にしかないのは驚きの特徴で日本人の持つ優しさであると思えます。

これは日本語に秘められた言霊の影響による偉大なるうねりが起こり得るかも知れませんが又北先生の具体的な講義内容々自分の中に隠れている自分を見つけるの心理テストでは興味深い発見があったり、心の科学、脳の科学ではIQ以外にHQQやPQQ、EQなどを教えて頂き、大変参考になりました。

特にHQQとは潜在能力指数で川のせせらぎの音、草木の揺らぐ音から自然界の声なきこえを聞き取る能力が本来日本語圏に住まう日本語を操る人たちにのみ与えられている能力とか。

がしかし日本語の言霊をつかわなければ右脳と左脳の間が開いていて活性化されていたものが段々減退してきている。

また日本語のもつ言霊を大事にしなくなったこともあるが！もう一つ大切なものを活用しなくなった事について、

それは『糖鎖』と呼ばれる酵素を取り込まなくなったとのことで現在では死語に成ってしまった糖

鎖」と言われる酵素がある。

誰でも手のひらの真ん中の所から「糖鎖」が出ており、昔はおかあさんが素手でおにぎりを握ったり、漬け物の糠床を素手で捏ねていたが、そのような慣習がなくなつて「糖鎖」を取り込めなくなつたことが大きな要因とのこと、現在では事典等にも出ていないが大切な物だとのこと。

北先生でないとなかなかお聞き出来ないことが多々ありましたので又北先生の講演会の機会があれば是非とも参加したいと思ひます。

それと講演会後の親睦会も身近に北先生の人間の豊かさに触れられるのも素晴らしい発見があり、楽しみです。

このような素晴らしい出逢いと人間性を高めて頂ける場をつくって頂き、サラ・シヤンティに感謝申し上げます。『ありがとう』とさせていただきます。

続いては

- ① 伊勢に移られた元岡本の愛農人のオーナー吉田さんからの伊勢だより⑩
- ② 「チャクラに響くコトタマ体験ワークショップ」に参加の池上敏子さんのレポート
- ③ ハワイアンフラやぼのぼの体操を主宰する土井暢子さんの文章
- ④ 3月6日〜13日まで1Fのギャラリーで宮城県気仙沼でのスケッチや絵画の個展をした川端あす香さんからのレポートです。

## 伊勢からの便り その十

吉田 博明



70歳で神戸市から伊勢市へ移住して、早くも5度目の春を迎えました。伊勢では、日々、歴史・文化などは太古の息遣いにふれ、日本の原風景ともいえる広々とした空や日の出、夕陽を目にし、四季折々の花鳥風月の織りなす季節感や旬の食べ物を堪能しながら、充実した余生を過ごしています。

移住前の14年間、神戸市の摂津本山で、妻と気心の知れた女性スタッフと共に、オーガニックレストラン&シヨップ「愛農人」を開業していました。まったく経験のない分野へのゼロからの出発でした。32年間勤めた会社生活に区切りをつけた56歳のときです。

開業の直接的動機は神戸市東灘区のマンションで経験した阪神淡路大震災です。当日、轟音と共に部屋中の物が散乱し、体の自由が奪われ、天井が回るようにゆがんでいるのが見えました。とつさに窓を開けると、夜明け前の薄暗がりの中に、日々眺めていた大木が何事もなかったように、凜と立つ姿が目に入りました。そのとき、何故か、自分とは自然の分身であり、存在の基本は自然との思いが脳裏を駆けめぐりました。

同時に、40代後半兵庫県篠山市で日曜菜園の同好会に参加していたときのことを思い出しま

した。大地に直接働きかけたあとの爽快な疲労感、自然の中に身をゆだねることの心地よさ、成長過程を見届けた後の収穫の喜びなどです。有機無農薬で育てた完熟トマトのあまりのおいしさに、田舎で過ごした子供時代の食味がよみがえってきました。特に、農家の人たちの指導で泥まみれになつて育てたお米を、地元酒蔵で日本酒に仕上げてもらった味は、忘れていた「農」と「食」への思いを新たにさせてくれました。

しかし、潜在的な動機は、会社生活の後半に感じた「世の中何かおかしいぞ」との疑問でした。当時、モノ作りの国際分業化を促進しながら、拡大再生産を先導していた自動車・小売業界と仕事上深いかわりを持っていました。この世界的潮流にのつて、際限のない利益追求の陰で、生産現場で人間が機械化されてゆくことに違和感を覚えました。また、日々の生活を支えていた、地元で密着した商店が量販店の進出と共に、次々とシャッター通り化してゆくのを目の当たりにしてきました。

この拡大再生産の潮流が、物質的豊かさ引き換えに、「大地」・「地域」から人を切り離してきた一つの要因ではないかと思ひました。人間中心の価値観と行き過ぎた弱肉強食の競争原理が、節度ある精神まで萎縮させてきているのではないかと感じていました。

特に、急激に受け入れた欧米化の流れは、体は食べ物を変えたものという「食」の概念を一変させ、本来、人間の暮らしや環境は「からだ」と分離不可能ととらえられてきた日本の社

会通念まで忘れさせてしまいました。化学物質や化学肥料などの使用を当たり前とした経済優先の潮流により、修復不可能なまでに環境を破壊してしまったことが、持続可能性ばかりか、年間30兆円を超える医療費の増加に歯止めのかからない現状を反映した要因ではないかと感じています。さらに、極端な工業化への傾斜は、経済大国となったものの、生活基盤である食料は世界最貧国並みの60%以上も他国に依存しなければならぬ最も危ない国の一つになっていると感じたことです。

2015年、厚生労働省は報告書の中で、100歳以上の超高齢者は前年比で2740人増加して、60800人(男性7800人、女性53000人)で、初めて6万人を超えたと伝えました。日本での超高齢者は1964年が190人で、1万人を超えたのが1998年だったと言われていたので、近年、急速に増加傾向をたどり、また速度も早まっています。また、報告書では、2025年には17万人、2050年には70万人に達するとの予想も示しています。このため、医療費・介護福祉費は現在の50兆円(年)から2025年には75兆円にふくれあがるとも指摘しています。

現在、日本人の平均寿命は83歳(男性80歳・女性86歳)ですが、日常の生活に支障をきたさない健康寿命は平均73歳(男性72歳・女性74歳)です。この先、平均寿命と健康寿命との差10年をいかに縮めてゆくかは、これからの一人ひとりの健康に対しての関心度合や時代に合ったライフスタイルへの軌道修正ができるかどうかが医

療費・介護費の削減やひいては幸福度まで大きく左右するのではないのでしょうか。

紀元前500年、儒教の開祖 孔子は80歳でこの世を去る前、弟子に次のような論語の一節を語りました。

吾十有五にして学に志す(人生の進路を決めた)  
三十にして立つ(自分なりの基盤を確立した)  
四十にして惑わず

(自信を持ち戸惑うことがなくなった)

五十にして天命を知る(使命を悟った)  
六十にして耳従う

(何を聞いても動じなくなった)

七十にして心の欲するところに従って矩を超えず  
(心の赴くままに行動しても節度や道理に反することはしなくなった)

2500年前の論語がいまだに現代社会で命脈を保っていることは、まさに驚異と言えますが、私自身、これまで生き方の指針として念頭に留め、折にふれた自省の教訓としてきました。

尾崎行雄・号堂(1858年〜1954年)は憲政の神様として称えられた偉人です。伊勢市を選挙基盤(三重5区)に31歳のとき第一回衆議院選挙に出馬し、以後95歳で世を去るまで25回(63年間)連続当選しました。日頃、学窓の大先輩として尊敬していましたが、残された号堂五訓にある「人生の過去は予備であり、本舞台は未来にあり」との一節が、最近重みをもって感じられるようになりました。

伊勢での残された余生を、これまで背負い込んでしまったしがらみやこだわりを取り除き、自身をよりどころとした仏教という「空や無」の境地に少しでも近づき、孔子に学んで自分なりの八十歳、できれば九十歳の心の軌跡を表現できればと願っています。

## 「チャクラに響くコトタマ体験 ワークショップ」に参加して 池上 敏子

サラシャーンティさんは  
摩訶不思議な空間です。

会ってみたいなあ、お話を聞いてみたいなあと思ってる人に、必ず会わせてもらえ、そしてリンクし、結びついていく……。



宮崎真行さんの「チャクラに響くコトタマ体験ワークショップ」は、まさにそういう講座でした。私が宮崎真行さんを知ったのは、一年半ほど前のことです。そのころ、私はカタカムナに夢中で、スピリチュアルな話のできる友人に、カタカムナについて「いよ。」と会うたびに言っていました。

しばらくして、その友人に会うと、彼女はカタカムナを調べているうちにアワ歌にたどりついたらしく、宮崎真行さんの「アワ歌で元気になる」(文芸社)を、ポロポロになるまで読みこんでいました。チャラッと見せてもらったら、チャクラにつながる器官と色」の表に目がとまりました。言葉とチャクラの関連が知りたくて、さっそく、私

も宮崎さんのこの本を購入し、読んでみました。そして、アワ歌を歌えるようになりたいと思うようになりました。

ところが、私の場合、カタカムナは自然に暗唱できるようになったのに、アワ歌は、なかなか暗唱することができませんでした。早く覚えて、日常のなかでアワ歌を歌いたいという思いとつらはらに、一向にもにすることができないまま、いつのまにかうやむやに過ぎてしまっていました。そんななか、アワ歌を覚えるきっかけがまたしても、サラシャンティさんでおきました。

それは、佐藤敏夫さんの『神の数学』で知り合った方が、カタカムナとアワ歌両方唱えるのがいよいよ教えて下さったのです。それを聞いて、直感的に両方が必要なんだと感じました。アワ歌とカタカムナ、やはり両方唱えなくては……と強く感じました。

このときの道をつくってくれたのも、実は宮崎さんの『アワ歌で元気になる』の本でした。強く思った時、本のなかにあったアワ歌に矢印が描いてある配置図が無性に思い出され、半年ぶりに再びこの本を手にしました。配置図の矢印にしたがつて音読していると、あんなに覚えられなかったアワ歌が不思議とスツと入ってきました。暗唱して畑で歌っていると、カタカムナの吉野信子さんが撮られる写真によく映る 赤い生命の花とたね」が、イメージとして湧いてきました。

カタカムナとアワ歌がタイムラインでつながった感じがしました。そして、自己流ですが、カタカムナとアワ歌を日々歌って楽しめるようになったところで、やっと宮崎さんのお話を聞く機会を得ることができました。

体験ワークは経絡をゆるめるところから始めました。このとき、経絡というものが何なのか、私は初めて知りました。経絡は氣の流れるところで、真皮細胞と細胞膜の間の電気抵抗の少ないところときいて、体をゆるめてこそ響きあえて、波動が伝わることに気がつくことができました。そして、私自身にとつて、すごく参考になる説明がありました。

頭は限定してしまう、心はコロコロ変わる、体から入りなさい。体から入ったものはしっかり残ります。」なるほど、と思いました。私が、アワ歌をなかなか覚えられなかったのはそうゆう訳だったんだ、と思いました。

今回の講座では、実際に体をほぐし、色々なマントラを唱え、参加者の方々と響きあうという大変有意義な体験をさせていただきました。また、本だけでは得にくい部分を感じることができ、素直に実践していく大切さを学ばせていただきました。

さらに、「ほかみえひため」も唱えたいと思うようになりました。神戸にある一ノ宮から八ノ宮神社も意味深く、今、先生が研究中の江口英真さんについても興味がわいてきました。それらが、

繋がるのを楽しみにこれからも、言霊を唱えていこうと思います。

このような体験の場を提供してくださる、サラシャンティさんと、そこに集うすべての方々に、心から感謝いたします。

## 第2・4月曜日のAONEI HULAと 第3火曜日ほのぼの体操・地球ダンス

講師 土井 暢子

立夏。山の木や葉も若々しく鮮やかに、夏の気が立つ季節となりました。

今日は、土井 暢子と申します。

この度、サラシャンティさんでダンスワークのクラスを定期的に参加させて頂くこととなりました。どの様なワークかと申しますと、



☆AONEI HULA

ハワイアン、タヒチアン、その他様々なダンスの要素を取り入れたオリジナル創作ダンス。

9年ほど前から、主にハワイアンを学び、時にタヒチアン、アフリカン、クラシックバレエなど様々なダンスのエッセンスを取り入れながら、自分の内側から巻き起こる舞を感じ、表現して参りました。

自然の中で、舞台で踊ること。それぞれに味わう感覚があります。

内側から湧き起こるものが、私とひとつになった時。私と他者、今あるこの時間と共鳴し喜び溢れる感覚を味わうことができます。

舞台での舞を見て下さった方から、踊りを習いたいというお話を沢山頂き、7年ほど前から各地でのワークショップを開催させて頂きました。またその後、定期的なクラスを開催して頂きたいというお話を各地方で頂き4月より、ご縁のあるサラシャンティさんでワークショップを開催する運びとなりました。

HEUAの他に、本格的なダンスをする前の準備体操にもなる **☆ぼのぼの体操**

体をゆるゆるとゆるめ、声を出したり、体を動かしながら、いつのまにか、楽しくぼのぼの整っていく遊びのワークです。

内容は、呼吸のワーク、声を出す、体のストレッチ、マッサージ……

これらのことを想像力と遊びのエッセンスをとり入れながら、1人で内側に向き合ったり、お互いに助け合いながら、創造していきます。ぼのぼのの意↓ゆるまる、楽しい、楽、心地好き、整う、正しい。

### ☆地球ダンス

ダイナミックに体を動かすワークです。地球に存在するもの、もしくは存在しないもの、想像できるあらゆる媒体を体や声で表現します。

ただ内側から湧き起こる情熱、アートを形にします。即興で生まれてくる物語りの中、体感で大宇宙と遊びます。時々、ゲストにミュージシャンをお呼びして、音、リズム、うたと共演します。

\*3つの体を使ったワークを紹介させて頂きました。それぞれに色の違う特色があります。

♪ぼのぼの体操は、お子様、ご高齢の方などでも参加頂ける、楽で楽しい簡単なワークです。地球ダンスへ向かうリハビリでもあります。

♪地球ダンスは、より自由に表現したい人向け。ダイナミックな動き、音、物語りと共に展開していく即興のワークです。

♪AONE HEUAは、基礎の体作り、体の軸の取り方、ステップをしつかりと踏む、下半身の安定感を鍛えるワーク。

日本、ハワイ、タヒチ、リズムのみなど曲目に振り付けたものを主に踊っていくワークになります。

#### \* 参考資料

過去に振り付けで参加させて頂いたダンスワークです。宜しければ、ご覧ください。

\* 沖繩でいんさぐぬ花

https://vimeo.com/135860986

\* アフのつた

http://youtube.com/Mk81gs1gs

みなさまの生活に潤い楽しく、和の時となりますよう。また、一緒にさせて頂くこと楽しみにしております。

## 東日本大震災・紀伊半島大水害

### ・阪神淡路大震災を撃いて

川端あす香

2016年3月9日から16日まで、シャンティすぽつとギャラリーにて、初個展 川端あす香展―私たちは、永遠に繰り返す、束の間の夢を見る―を開催しました。個展に足を運んでくださった方々、心をかけてくださった皆様、そしてサラシャンティの皆様、本当にありがとうございました。

会期中は沢山の人にお会いすることができ、とても幸せな時間となりました。しかし一方、個展のテーマは東日本大震災であり、311を挟んだ日程で、作品を発表することに迷いや怖さもありました。私たちは、永遠に繰り返す、束の間の夢を見る」という個展の副題は、津波とそれに伴う火災によって、裸になった気仙沼の景色を描いた作品からとっています。

個展では、これまで東北で描いてきた風景や、出会った方々の似顔絵をもとにした作品を展示しました。また同時に開催したイベント 復興ひろば2016 被災地女性の声を届ける―過去・人・未来との対話―(主催・トモプロジェクト)では、自分自身のこれまでの活動を話させてもらいました。

2011年3月11日の東日本大震災から半年後、9月4日に紀伊半島大水害が私の地元を襲いました。東日本大震災と比べると、被害の規模や死傷者数などは言うに及びませんが、台風の影

響による連日の豪雨により、山の斜面が滑落するなど(山津波)、激甚災害に認定されました。

幸い、家族は無事でした。しかし、実家が流され、飼っていた動物が亡くなる、なつかしい風景が変わる、そして知っている方々が亡くなるなど、どうにもならない気持ちがありました。たくさん友人・知人、親類が心配して下さい、和歌山のはしごまで、手伝いや、お見舞いに来てくれました。あの時の励ましはとても心強く、本当に感謝しています。

私は2012年3月に初めて、東日本大震災の被災地を訪れて以来、時々気仙沼を訪れています。仮設住宅や商店街で出会った人の似顔絵を描きながら、地元の人とマイペースに交流させてもらっています。気仙沼は、これまで全く知らない土地でしたが、何度も足を運び、人と話していく中で、親しみが生まれてきました。太平洋側の気候ということもあり、和歌山に抱くような懐かしさもあります。

人と交わりながら、絵を描くことで、色々なことを学ばせてもらいました。初対面であっても、似顔絵を理由に15分間は向かい合うことができます。相手を見つめ、他愛ない話をして時間を共有できることは、とても豊かなことだし、私自身が癒されるように感じています。



010430 - 3511354

東北で絵を描く中で、和歌山や家族のことをよく思います。同時に和歌山の景色を通して、東北を考えることもあります。また、阪神淡路大震災についても、東北での活動を通して、新しく知ることが多くありました。私は当時4歳で、ほとんど地震の記憶はありません。ニュースの映像で避難所の様子を見て怖かった気持ちや、大人達の深刻な雰囲気だけを覚えています。

東北で活動されている方には、阪神淡路大震災を経験している人が多く、自然とその話題になりました。個展中も絵を前にして、ご自身の経験を話してくれた人もいます。個展をお願いした時には知りませんでした。サラシャntyは、震災との関係が深く、自分にとっては運命的に感じる部分がありました。

災害の国、自然の国、日本で生きていることを311以降強く思います。果てしない時間の流れ、変化をとめることは出来ませんが、復興の途上である土地の景色を見ながら、人の営みや大地の普遍に感動します。今回、皆さんに作品を見てもらい、話をさせてもらって、身体が少し軽くなったように感じています。

災害は本当に悲劇的なことですが、この5年間で出会った方々や、感じたことは、今私の大切な血肉となっています。今後もゆくりと出来ることを続けていきたいと思っています。

## 編集後記

5年経った東北の復興もまだまだなのに、今度は九州で地震が起きた。不幸中の幸いは原発には異常がないことです。今回の地震は余震の数が異様に多いので、被災者の方は大変だと思います。神戸のときも、ダンプカーが通っただけで、余震だと怯えた思いがありますので、早く納まりますことを心からお祈りいたします。

さて、私事ですが、9年前から、患っていた甲状腺ガンがこの度完治しました。手術をしないで、良いと言われることを色々したり、それこそ、沢山の方々に助けていただいたりしました。お医者さんもいくつも訪ね、最後に納得のいく方に出会いました。ここ数年甲状腺ホルモンの数値が一種類改善しなかったのが、この3月にやっとクリアしました。エコーでの画像診断もすべて消えた訳ではありませんが、今あるものは良性の腫瘍でホクロやシミのようなものに変化していて気にしなくて良いと言っていたいただきました。

最初のころに比べて、自分でも良くなっているとは思っていましたが、やはり、数値などではっきりクリアしたことはとても嬉しいです。お世話になったみなさまに心から感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございます。

清水和子